

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390300483		
法人名	有限会社 九州ライフサポート		
事業所名	グループホーム はっぴーらいふ		
所在地	熊本県人吉市下原田町字荒毛1516-1		
自己評価作成日	平成29年12月5日	評価結果市町村受理日	平成30年3月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成29年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念の中にある「症状の改善や機能・能力の回復を図り」に向けて、理学療法士である代表者や認知症ケア専門士の資格を持つ作業療法士とは、身体機能面や認知症の対応困難な方のケア方法についてなど、いつでも連絡・相談できるようにしています。入居後や退院後は状態を確認してもらい、今後の対応について助言や指導を得ること、ケアに活かせるようにしています。ホームは静かな住宅街の中にありながら、近くには桜や果樹など多くの緑が見える所に立地し、ホーム内はリビングと居室が分かれており、リビングには薪ストーブがあり、長い廊下は歩行訓練の場として活用されています。日常生活では、洗濯や料理の一部を手伝っていただいたり、一緒に野菜や花を植えたりと、ご利用者の持っている力を大切に、今までの生活が継続できるよう支援しています。また、今まで関わりのあった場所や人との交流が途絶えないよう、花見や祭りの行事などに車で出掛け、楽しみのある生活が送れるようにしています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して7年の経過に、入居者の入れ替わりもある中で開設当初からの入居者も身体的な低下も無く過ごされる様子に、職員の関わりの深さや健康管理の賜物であることが確認され、グループホームリビングの本来の姿として活気あふれる生活ぶりである。玄関先での花の手入れ、お裁縫、部屋での読書等生活歴や残存能力を発揮した生活や、同級生同士が愛称で呼び合いながらの生活に表れている。法人の持つ機能は歩行訓練等に生かされ、医療的の部分でも家族や職員に安心を与え、経験豊かな管理者の指導を受けながらのスキルアップや今年は職員のプレゼンテーション能力を高めるための方策を勉強会に入れながら質の向上に努めている。(拘束・虐待防止に向けた研修等) 昔のお付き合いが色濃く残るこの地で培われたノウハウを生かし、自然体でケアに臨むホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関に掲げ、職員がいつでも見ることができるようになっている。「症状の改善や機能・能力の回復を図り」は法人の協力を得ながら、職員が実践につなげている。しかし、開設7年を過ぎ、理念の見直しを行ったが、改正までに至らなかったため、現状に即した理念を作るようにしたい。	開設7年の経験を踏まえ、職員のケアの方向性を示すものとして捉え、法人の持つ人的環境（訪問リハ・訪問看護等）を生かした運営体制は変わりはないが、在宅復帰は難しい現状に、入居者の現状に即した理念へと見直しが検討されている。	パンフレットのキャッチコピーとして “ここにもあなたの憩いのわが家”が掲げられている。これを基にした、職員のケアに直結できるような理念、若しくはサブ的な目標を立てること等検討いただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、隣保班の花見（総会）に参加し、近隣の方達と情報交換を行っている。隣の園児が回覧板を持参した際、利用者と交流できるようにしている。また、近隣の方から庭の花をいただいたお返しに手作りのおやつをおすそ分けしたりと交流を図っている。	地域の中でのホームの存在は認識され、隣の子どもの回覧板を通じた交流や、散歩時の声かけ等昔ながらのつきあいがなされている。運営推進会議の中で地域の行事等も話し合われ、町内会の一員として総会や花見等に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居申し込みのため見学に来られた際に、相談にのったり対応方法を話している。また、中学生の職場体験の受け入れを行い、認知症の症状や介護について学んでもらった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議で、活動実施状況や事故等について詳しく報告している。その中で、いただいた助言やアドバイス、また、意見交換の際に得た情報をケアや活動に活かしている。また、年2回は2事業所のデイサービスと合同で会議を開催し、地域の高齢者や取り組みなどの情報等を得ている。	定期的に開催する運営推進会議は、入居者や職員の状況や活動を報告す、事故報告をもとにした意見交換や多くのアドバイスを得、ケアサービスに反映している。また、研修参加時（身体拘束と虐待等）の情報が参加委員への意識付けとして生かされたり、地域高齢者情報や町内の夏祭り等の話しあう機会とし、敬老会を組み入れる等工夫しながら開催している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で事故等の報告をしたり、行政からメールにて情報をもらっている。今年度は実地指導を受け、その際ホームの実情等を聞いていただき、相談しやすい関係作りができたと思っている。	運営推進会議の中で認定期間によっては区分変更も必要等のアドバイスを得たり、実地指導時にホームの現状を発信し、サービス向上に反映させている。県からの通達や研修案内、インフルエンザやノロ対策等時節に応じた情報がメールにより寄せられ、介護認定申請を代行し、訪問調査時に情報を発信する等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所が研修会の担当の際、身体拘束をテーマとして、職員が各々に調べたりケアを振り返ることで、理解しスピーチロックなど拘束にあたるような事がないか確認できた。玄関は、日中は開錠しており、利用者の帰宅願望が強い時は、一緒に外に出たり座ってゆっくり会話することで気分転換を図れるようにしている。時には、同一敷地内の事業所の協力を得ることで、拘束しないケアに努めている。	隣接のデイサービスと一緒にを行う研修の中で、身体拘束・虐待防止についてチェックリストをもとに職員個々が下調べしたうえで開催し、プレゼンテーションも職員が行うことで、スピーチロックについては認識を強化させている。帰宅願望が顕著に出ている入居者対応に苦慮された様子であるが、家族の協力や、夕方には夕食作りを一緒に行う等一日の生活の中に役割を作ったり、他の入居者の受診と一緒に出かける等様々な観点から検討し支援するとともに、隣接するデイサービスの見守り協力を得ながら、束縛の無い自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様、虐待についても内部研修を行い、日常内で虐待や暴力はどんなものがあるかと考えたり、虐待に関連する記事等を話題にしてケアを振り返ることができた。利用者の言動や表情に注意を払い、皮膚の観察にも注意している。少しの傷でも気付いた時は、管理者と一緒に確認し、原因を追究、対策をとるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員の中には、成年後見制度の研修を受けており、研修の機会があれば、未受講者に声掛けしている。今までに制度を利用された方がおられるため、体験を踏まえながら家族等に制度について説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に必要書類について説明後、不安や疑問点等があれば丁寧に説明し、了解を得られたうえで締結をいただいている。改定の際は、運営推進会議の中で出席者の方に説明し、ご家族が来所された際や電話にて事前に説明した後、同意書に署名・捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、契約時に要望など何でも言っていただくようお願いしており、面会時にも話し易い雰囲気を作り、お尋ねしている。しかし、本音をお聞きすることはできておらず、アンケート調査も実施できていない。	玄関には“はっぴーになる一言を”として意見箱を設置し、家族の訪問時を捉え要望等を聞き取りしており、受診時に検査を依頼されることはあるが、意見や要望の申し出は少ない。敬老会(運営推進会議を兼ねた)には家族に案内しているが参加も少ないようである。	家族の忌憚りの無い意見等を収集する機会として、家族との交流会を企画されることも一案である。職員の入れ替わりもあり、家族と顔を合わせる機会としていただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者が出席する1回/月の会議の場で職員の意見や提案を自由に発表できる場としている。会議に出席する管理者は、ホームの会議等で得た職員の意見や提案などを相談している。	管理者会議等自由に意見等発言できる体制として、職員からの意見等をもとに検討しており、玄関の手すり等が改善されている。管理者は日々ケアに入りながら職員からの相談を受けたり、月1回のケアカンファレンスのなかで職員からのケアへの意見等を聞き取りし、ケアサービスに反映させている。また、申し送りノートによる情報の共有化や新聞記事を用いた職員への啓発の他、質の向上に職員一人ひとりが取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1度、職員は、人事考課シートを用い自己評価を行っている。代表者は自己評価に目を通し、個別面談にて、職員の思いや意見を聞けるようにしている。希望休や有給取得などの整備を行い、できる限り可能となるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の内部研修の前に代表者が資質向上に向けて、代表者の思いを話している。資格取得や外部研修などへの参加を促し、資格取得後には手当面で処遇している。そのため勤務調整も可能な限り融通を利かせるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会の研修会や懇親会に参加し、情報交換や交流を行っている。業務内容の改善や確認など電話にて相談し、サービスの質の向上を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関わっている関係職員やご家族から話を伺ったうえで、ご本人に面会し、要望等をお尋ねしている。またその情報を持ち帰って職員間で話し合い、共有することでご本人が安心して、共同生活を送ることができるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族に見学に来ていただき、ホームの環境や雰囲気・職員のケアの状況を見ていただきながら、事業所の方針や活動等を説明したり、困っておられることや要望をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族との面談時の話や状況、関係職員の情報などから、何を必要とされているかを見極め、必要があれば同法人内の専門職員に相談したり他のサービスを紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	情報提供書を基にご本人・ご家族に職歴や趣味等をお伺いしたうえで、家事を中心としてお一人お一人に応じた事を手伝っていたいている。時には、調理の仕方や花の育て方などを教えていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会の際に身体や生活状態などの状況報告を行っている。面会時には居室に椅子やテーブルを用意し、ゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。希望されれば、ご自分でご家族に電話をかけていただき、思いを伝えられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お彼岸に墓参りに行ったり、自宅近くの観音様参りに行き、昔馴染みの方との交流が図られている。青井神社の参拝やおくんち祭り見学に行くなど人や場所との関係が継続できるようにしている。	自宅近くの観音様参りでは知人との再会につなげ、この地ならではの祭りである“おくんち”見学等馴染みの関係性が途切れないように支援している。お盆には昔話をしながら“むかえだご”を作ったり、みそだごや春はぼたもち、秋はおはぎを作る等四季折々の慣習を継続している。新聞を読む方、お裁縫、部屋での読書等これまでの生活が継続され、小学校の同級生の入居により「〇〇ちゃん」と愛称で呼び合う姿もあり、入居者同士も馴染みの関係性にある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を観察・把握し、円滑な関係が保てるよう席の配置に配慮したり、身体の状態に応じて、座る位置や活動の内容、行う場所にも配慮している。コミュニケーションの困難な利用者には職員が会話を取り持ち、集団での生活が送れるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も様子を見に行ったり、状態を尋ねたりしている。その際、情報提供書で不足していた部分があれば補足している。お亡くなりになられた時は、使用されていた介護用品をご家族よりいただいたりお参りに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、希望をお尋ねしたり、会話や表情・行動などから思いをくみ取るようにしている。ご家族や知人の面会時に、雑談の中で昔の暮らしぶりなどの情報を得ている。思いや情報は職員間で共有し、できる限り本人本位の生活ができるよう支援している。	入居者の生活歴や職歴等家族との会話の中から拾い上げ、日々の関わりの中で希望などを引き出している。足が不自由な方には、長いことお墓参りに行かれていないだろうとホーム側から入居者に聞き取りし支援したり、発語はあるが意味が不明な状況に旧姓で呼びかけ、行動や仕草等を把握し、こうではないか等推察し、本人本位になるよう工夫しながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書の内容を基に本人やご家族にお聞きしたり、これまで利用されていた関係職員から馴染みの生活状況や環境について情報収集を行い、利用時の状況の把握に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	2回/日のバイタル測定や排便等を詳しく記録してある個人記録等を通して健康状態の把握を行っている。その時の状態に応じて、一日の過ごし方も臨機応変に対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意向をもとに、毎月のケア会議にて利用者全員のサービス内容の実施状況等について検討し、介護計画に反映させ、本人により合ったケア方法の統一を行っている。また、その方法も随時見直し、必要があれば変更している。	家族の意向は家族に記載してもらい、短期目標毎のモニタリングにより考察及び修正内容を精査し、サービス計画表を変更している。退院後や区分変更による見直し、介護認定更新時には新たに家族に意向等の聞き取りと説明により同意を得たプランを作成している。帰宅願望の軽減に向けたサービスを中心としたプラン等個々の心身の状況に応じたプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、その日の状態やケア内容を個別に細かく記録している。気づきやケアの変更など急ぐ事は申し送りノートに記録し、情報の周知・統一を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診外でも状態の変化があれば、職員の受診介助や代理受診にて主治医に相談している。また、入居後や退院後は作業療法士に対応方法を相談したり、身体面の評価を依頼し、必要な装具や福祉用具、介助方法などのアドバイスを受けている。また、必要に応じて、自主トレーニングのメニューを作成してもらい、職員で行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	広報誌や職員等から地域の行事の情報を入手し、トイレや駐車場など確認のうえ、利用者が安心して出掛けられるようにしている。地域の施設の祭りや保育園の花御堂参拝に行き楽しまれたり、個別には、髪染めを希望される方は近くの美容室へ送迎している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、かかりつけ医は今までの医療機関を継続可能であることを伝え、ご本人・ご家族に意向を確認している。初診や専門医の受診の際は、職員が付き添い、状態を詳細に伝えている。また、必要に応じて訪問薬剤師を利用していただくことで、より適切な医療を受けられるようにしている。	本人・家族の希望するかかりつけ医を支援し、往診可能な協力医へ変更される方もおられる。必要に応じて訪問薬剤師の利用により、適切な医療支援に繋げている。職員は起床時や必要に応じてバイタルチェックを行い、異常の早期発見や入浴の可否を見極める等健康管理を徹底している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と連絡ができる体制をとっている。介護職は状態の変化に気付いた際は、管理者に報告し、管理者より看護師に報告・相談している。管理者不在の場合は、直接看護師に連絡し、指示を仰いでいる。看護師より協力病院の医師やかかりつけの調剤薬局に相談してもらうこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、職員や訪問看護師が付き添い、情報を提供したり情報提供書を渡している。また病院に出向き、状態を尋ねたり、早期退院にむけて、退院後の対応方法をPT・OT・訪問看護師に相談し、退院後の協力を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時の説明と共に重度化した場合の指針について説明を行い、同意の上契約を交わしている。その際、終末期について家族の意向をお尋ねしている。担当者会議の時や状態が悪化された時など、その都度ご家族の意向を確認している。	終末期支援については入居時に指針に沿って、できる事出来ない事を説明し、家族の思いの揺れ動く気持ちを察しながら、その時々で話し合っている。退居先で短期間で亡くなられた例から、環境の変化が如何に重要であるかを痛感しており、悔いのないよう日々の関りを大切にしていけることを全職員で共有している。	急変時の対応について家族の希望とのやり取りを記録されている。更には文書化し同意を交わすことも検討いただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルは常に目にする場所に掲示している。全体研修の普通救命講習にて初期対応やAEDの使用方法について学ぶことができた。外部で開催される際も参加してもらい、全職員が急変時等の初期対応ができるよう取り組んでいる。AEDの設置も予定されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練を行い、1回は消防署の立ち会の下行っている。夜勤をする新人職員がいる場合は、夜間を想定し、新人職員に1人での対応を経験してもらっている。去年は地域の消防団の方にも訓練に参加していたが、今年は未実施のため、今回は協力をお願いしていきたい。	年2回の消防訓練(1回は消防署の立ち合い)を行っている。新人職員が入職した際は、夜間を想定し、初期消火から通報、避難誘導まで一連の流れを体験してもらうようにしている。訓練後、参加した消防設備業者より、避難後の安否確認方法についてアドバイスを受けている。熊本地震では、ホームに大きな被害はなかったものの、水の有難さや普段の備えの重要性を実感し、課題にあげている。災害対策については、運営推進会議でも訓練の報告を行い意見やアドバイスを求めている。	ホームでは共用空間や居室のコンセントの埃確認も注意を払っている。備蓄については、定期的に確認の機会を持つことや、災害避難時の頭巾の準備なども有効と思われ、検討いただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉に態度はついてくると考え、言葉遣いは方言を交えながらも基本は敬語とし、人格を尊重した声掛けを心掛けている。スピーチロックや威圧的な声かけなど、不適切な対応がみられた時は職員間でも確認し、注意するようにしている。入浴介助など異性に対して拒否される方は同性で対応し、入浴時は施錠をしている。	入居者の尊厳に配慮した対応や、方言はコミュニケーションにも繋がるが、馴れ合いにならないよう心掛けている。入居者同士が同級生の方は、お互い昔の相性で呼ばれており、互いの部屋を行き来するなど、関係性を大切にサポートしている。入浴介助は、同性を希望される方もあり、担当を変えて支援している。職員は在室の有無に関わらずノックを徹底し、守秘義務の徹底については、新人研修をはじめ機会あるごとに指導が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を傾聴し、可能な限り希望に沿うようにしている。意思表示をされない方は、信頼関係ができていない職員が会話の中から思いを引き出したりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な生活は大まかにあるが、その日の体調や気分に合わせて、ご本人のペースで過ごせるよう支援している。疲れた時は居室で臥床したり、テラスで日光浴したり玄関の花の手入れをしたりと思い思いに過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えなど自分でできる方は、洋服を選んだり、お化粧をしたりされている。髪は訪問散髪に来ていただいております。髪染めを希望される方は美容室に送迎している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人や家族に好みや食べれない物をお尋ねし、食べれない物は台所に貼り、代替えの物で対応している。敷地内の野菜や果樹を利用者と一緒に収穫したり近くの無人販売所から野菜を購入し、利用者に料理法を尋ねたりして、料理に活かしている。個々の力に応じて下ごしらえや注ぎ分け、後片づけの下膳、お盆拭き等でできる事を手伝っていただいている。	入居者の希望や旬の食材を活用した献立は、入居者の嗜好や苦手なものを把握し、可能な限り代替え食を準備している。また、入居者へもこれまでの経験を活かし、料理方法などアドバイスを受け、つくたてのあんこ餅や鍋を囲んでの新年会、ぼた餅やみそ団子など、馴染みの郷土食作りにも一緒に取り組んでいる。	入居者によってはイスとテーブルの高さが適切でなく、食べにくいようにも見受けられた。クッションなどの使用も一案である。また、入居者の思いを共有するためにも1名でも検食を兼ね、同じものを食べることも検討いただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員がバランスを考えて、1週間分の献立をたてている。食事や水分摂取量はチェック表に記録している。ご本人の希望や摂取量に応じて主食の量を調整したり、摂取量が足りない方には、栄養補助食品をさしあげている。食事は口腔内や嚥下状態に合わせて形態を変えている。1日の水分摂取量が1ℓ以下の方は管理日誌に記入し、翌日はこまめな水分補給を心掛けている。自力摂取し易いよう食器の形や色などに配慮したりストローを使い、その方に応じたものを使用していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや介助を行っている。口腔ケアは、出来るだけご自分でしていただき、義歯の洗浄が難しい方も着脱はご自分でしていただくよう声掛けしている。歯磨きが不十分な方は手直しを行っており、拒否がある方は時間をおいて再度声掛けを行っている。お一人でも受診可能な方は歯科医院の送迎にて受診されている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えがある方は、その都度トイレに誘導し、訴えが困難な方は、排泄チェック表を確認したり、立ち上がられたり仕草などをみてトイレへの声かけや誘導を行っている。夜間は状態に応じて、ポータブルトイレやオムツを使用され、パッドの使い分けをしている。少量の失禁対策として、布パンツにサニタリー用シートを使用するなど工夫している。トイレでの立ち上がりや誘導時の歩行など自立への支援を行っている。	日中は布パンツに尿取りを使用し、声かけや誘導によりトイレでの排泄を支援している。男性用に立位式トイレを設置しているが、現在使用される方はおられない。排泄用品はホームで用意し、排泄用品の組み合わせや、トイレ誘導により家族の負担軽減に繋がるよう配慮している。夜間のみ使用される。ポータブルトイレは、日中はクロスを掛けプライバシーに配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	メニューの中にヨーグルトなどの乳製品や食物繊維の食材を取り入れたり、ラジオ体操などで体を動かしてもらっている。便秘の方は、腹部マッサージをたり、医師に相談して下剤を処方してもらい、排便チェック表を確認し、状態に応じて調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は隔日で、入浴前のバイタル測定にて体調を確認している。同性介助の必要な方は同じ曜日に合わせたり、入る順番はその日の状態やタイミングに合わせているが、出来るだけ平等になるよう配慮している。冬至には庭の柑橘を湯船に入れ入浴を楽しんでいただいた。拒否がある方は職員や声掛けの方法を変えたり時間をずらしたりと入浴されるよう工夫している。	毎日入浴の準備を行い、1日置きに支援している。入浴の順番も工夫しながら、ゆっくりと気持ちよく入ってもらえるようにしている。機械浴も準備しているが現在使用される方はなく、全員一般浴で安全な入浴に取り組んでいる。これまで温泉入浴が日課であった方にとって、入浴は楽しみの一つであり、自身でカレンダーに入浴日に○印をつけ入浴日を待たれている。浴室や脱衣場は季節に応じ室温管理に努め、清潔に管理されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、自立されている方は、自由に居室で臥床され、長時間の座位が困難な方については、午前・午後に臥床の時間を設けている。就寝時間は本人の生活ペースや体調に合わせて就寝されている。空調が必要な時期は、就寝時間に合わせて居室の温度を調整したり、冬は電気毛布など使用しスムーズに入眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬監を個人ファイルにはさみ、職員がいつでも確認できるようにしている。変更があった時は、個人記録に記載したり、申し送りにて情報を共有している。訪問薬剤師を利用されている利用者もおられ、服薬時の状況や服薬後の状態、残薬等を伝えることで、薬剤師より薬の調整など主治医に相談してもらうなど個々に応じた細かな支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々人の生活歴や趣味を把握し、今までと同様、新聞を読まれたり、役割として洗濯たみや料理の下ごしらえ・盛り付けなどしていただいている。また、趣味では花の手入れをしたりカラオケで歌われたりと、個人にあった楽しみ事が途切れないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに花の開花状況を調べて花見に行ったり地域の行事に車で出掛けている。春には遠くに行けない人のために、近くの空き地にお弁当を持参し、ピクニック気分を味わっていただいた。また、日常、天気がいい時は、近隣を散歩したり、ご家族との外出は、自由に出かけられるよう支援している。	敷地内の散歩やデッキでの日向ぼっこ、洗濯物干しなどは、身近な外出や役割として取り組んでいる。また、季節の花見は入居者も楽しみの外出であり、開花時期を調べ、桜やハス・つつじ・菖蒲・菊花展・梅園などへ出かけている。食材購入や美容室利用など個別支援に取り組む他、入居者の希望で墓参も行われてる。夏場は清流ドライブとして球磨川沿いの球泉洞入り口で涼んだり、青井神社の祭りや、三十三間堂観音参りなど、人吉ならではの外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に事務所で金銭をお預かりし、必要な物は職員が購入している。不安な利用者には、その旨を伝え安心していただいている。金銭管理が可能な方は、ご家族に了解を得たうえで、少額を所持していただいております。お賽銭をあげたり買い物したり、歯科受診料など自分で支払われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、利用者の希望があれば、電話をかけたり、取り次いでいる。手紙は、直接ご本人に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の数か所に温湿度計を置き、細めに温度や湿度の調整を行っている。日中は、ブラインドやカーテンで採光を調節し、夜は歩行される方が就寝されりまで廊下を明るくしている。トイレの臭いなど不快感がないよう廊下や玄関に芳香剤やお香を使用している。リビングのテーブルや廊下に花を置き、季節を味わっていただいている。	食事やテレビ視聴など日中の殆どを過ごすリビングは、暖炉の温もりが冬の寒さを和らげている。玄関先のプランターも入居者が枯れた花びらを摘まれ、いつもきれいな季節な花を眺めることができる。ホーム内は臭気や整頓を心掛け、法人の作業療法士や理学療法士のアドバイスを受けながら、廊下等歩行器を使用される入居者の訓練ができる空間にも努めている。	廊下にはホーム内や外出時の写真を掲示されている。今後は入居者の趣味や得意とされる方の作品(書道や絵など)をホーム内で紹介されることで本人の励みや家族の楽しみに繋がると思われる。取り組みに期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中、ソファや食卓の席の配置は、気の合う利用者同士で会話ができるよう配慮している。テラスには外気浴をしたりお茶を飲みながら談笑できるようテーブルとイスを設置している。独りを好まれる方は、居室で本を読んで過ごされるなど自由に任せている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や寝具を持ってきたり、説明している。家具の配置や写真フレームなどの置き場所は家族に自由にしていただいている。居室に椅子を持参し、本など読みながらゆっくり過ごされている方もおられる。	居室への持ち込みについては、自宅にあるもので良いことを伝えているが、他の居室を参考にして準備される方も多いようである。昨今では家具よりプラスチックケースの持ち込みも多く、家族の写真や塗り絵カレンダーなどにより、安心して過ごせるよう工夫している。会議の中で、エアコンの設定温度や掃除・換気の時間などを話し合い、個々に応じて居心地よく過ごせるようにしている。	季節外の寝具については、家族によって持ち帰りもあるが、ホームが中心に行っている現状である。今後も衣替えなど出来ることで家族の協力を得ながら、居室環境に取り組まれることを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室にはネームプレートを掲げ、トイレには視覚的に場所の認知が出来るように工夫している。廊下には必要なもの以外は置かないようにし、歩行の邪魔にならないようにしている。玄関には靴の着脱時に転倒されないよう、手すりが設置された。		